電事
送光
東工

送電工事、触れて学ぶ

宇都宮「職人祭」に出展

送電線建設・保守や再生可能エネルギー施工を手掛ける東光送電工事（東京都豊島区、佐野顕弘社長）はこのほど、宇都宮市で開かれた専門工事業の企業説明イベント「第5回職人祭」に出展した。昨年に引き続き参加し、一般向けに送電線工事の仕事内容を紹介した。ブースでは宙乗り器やVR（仮想現実）による昇塔の模擬体験を実施。多くの家族連れが体験し、送電線の仕事に触れた。

宙乗り器は、鉄柱間に取り付けたアルミ電線に設置。来場した子どもたちはヘルメットに軍手を着用。子どもを乗せた宙乗り器をロープで引っ張って鉄塔間の移動を模擬した。宙乗り器には手すりを取り付け、ブレーキや金車部分を防護するなど、安全面で改善を図った。子どもたちの反応は「楽しい」「少し怖い」と様々。自分の腕で宙乗り器を動かす子どももいた。

VRは東光電気工事が研修施設の鉄塔を使って撮影した30㍍の昇塔の様子を模擬体験。ゴーグルを装着した来場者は鉄塔を見上げたり、地上の様子を見下ろす動きを見せた。

ブースではこのほか、鉄塔の模型や写真を使って同社の仕事内容を説明。電線サンプルや碍子を展示し、送電線の役割と仕組みも伝えていた。

出展内容は、全国で工事を行っている同社若手社員らが集まり検討。一般社会に企業を紹介する場となったほか、社員同士が交流する機会になった。昨年は200人を超える来場者を記録した。

宙乗り器に乗り、人力で移動を体験する子ども

職人祭は、栃木県内の専門工事業者13社が出展。電気のほか、塗装や左官、とび、鉄筋などを専門とする会社が体験ブースを開いた。会場となった二荒山神社前のバンバ広場には福田富一知事も訪れ、県内建設業の技術力をアピールした。